

児童図書研究室ニュース

2004.9.30

福島県立図書館

<http://www.library.fks.ed.jp>

No.52

子どもの読書活動推進に関する動き

平成16年度 第2回子ども読書活動推進講座

日時:2004年11月19日(金) 13:00~16:20

内容:「今、なぜ0歳から絵本? - すべての子どもに言葉の喜びを -」渡辺順子氏(すずらん文庫)
「たのしみから始まる読書 - 物語の世界を子どもたちに」増山正子氏(まちだ語り手の会)

会場:福島県立美術館講堂

問合:福島県立図書館 TEL 024-535-3220

子ども読書活動推進フォーラム

期日:2004年11月6日(土) 13:00~16:20

会場:福島県文化センター

講演:柳田邦男氏(ノンフィクション作家)

内容:子どもの保護者、地域の読書活動推進関係者、教育関係者等を対象として開催し、家庭、地域、学校等の連携のもとに県全体としての子どもの読書活動推進に向けて意識啓発を図っていきます。

問合:県教育庁施設運営グループ TEL 024-521-7791

平成16年度 子どもの読書活動推進講座 報告

8月6日(金)に相馬市総合福祉センターはまなす館において行われた標記研修会の概要を当日配布の資料からご紹介します。

【講義1】「児童文学と文学の間 - 小学校高学年からの読書について」白百合女子大学教授 石井直人氏

*母と子の読書(読み聞かせ)から変化していく段階で、たった一人の私だけの秘密を文学の中で体験する・共有する。

【講義2】「図書館利用に障害のある子どもへのサービス」墨田区立緑図書館主任主事 山内薰氏

*障害者サービスとは、心身障害者へのサービスではなく「図書館利用に障害のある人へのサービス」である。物理的・制度的な障害 情報摂取あるいは資料をそのままでは利用できないという障害 コミュニケーション・情報発信の障害

*障害のある子どもに対して図書館が考慮しなければならない基本的な観点

本人と直に触れあうこと

遊びというコミュニケーションの必要性

図書以外のおもちゃなどの図書館資料の必要性

親への積極的な働きかけ

資料だけでなく場合によっては実物に触れることへの援助

読み書き(点字など)の保障

同じ障害のある生活者に接してもらうこと

教師・学校との協力体制

点訳・音訳など応援態勢を組織すると共に求められた資料を極力素早く提供できる体制の確保
パソコンなどの最新機器の利用

*「豊かな読書を保障することは単に豊富な本や資料を提供するということに止まらずに、そのための体験や経験の問題までも含めて考えていかなければならない」

公立図書館児童サービス実態調査

日本図書館協会が実施した2003年度の標記調査によると、県立図書館のうち新刊児童図書を全点購入しているのは、岩手、茨城、埼玉、山梨、滋賀、岡山、鳥取の7県です。市区町村立図書館では、平均蔵書冊数が2万8291冊と1999年の同じ調査より11%増加していますが、児童図書担当職員について専任を配置している館は544館から369館に減っています。

2002年に国が発表した「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」には、公立図書館における資料・設備・職員の整備・充実がうたわれています。この計画をふまえた各自治体の運営が望されます。

イベント・講習会 情報

全国公共図書館児童・青少年部門研究集会

研究主題:一人一人の子どもに読書のよろこびを

期日:2004年11月25日(木)~26日(金)

会場:福井県生活学習館ユーアイふくい

福井県中小企業産業大学校

問合:福井県立図書館 TEL 0776-33-8860

本にえがかれた動物展 十二支を手がかりに

期間:2004年9月18日(土)~2005年4月10日(日)

9:30~17:00(休館日:月・祝日・毎月3水)

会場:国際子ども図書館 参考:<http://www.kodomo.go.jp/>

第5回子どもの本 この1年を振り返って 2004年

期日:2004年12月1日(水) 10:00~17:00

会場:国立オリンピック記念青少年総合センター

問合・申込:図書館の学校 TEL 03-5943-0666

[ご質問・情報はこちらへ 福島県立図書館・児童図書研究室]

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218 FAX 024-536-4787

E-mail kodomo@library.fks.ed.jp